

2019 年度事業報告案

目次

1. 事業報告全般	3
1.1. 全般.....	3
1.2. 2018 年度役員および担当.....	4
1.3. 会員異動.....	5
1.4. 総会.....	5
1.5. 理事会.....	5
2. 事業活動	6
2.1. 会誌刊行事業.....	6
2.1.1. 会誌編集委員会.....	6
2.1.2. 会誌経営委員会.....	8
2.2. 普及研修事業.....	9
2.2.1. 研修委員会.....	9
2.2.2. シンポジウム実行委員会.....	10
2.2.3. 試験実施委員会.....	10
2.2.4. CBT 導入分科会.....	11
2.2.5. 広報活動(広報委員会).....	12
2.2.6. 西日本委員会.....	12
3. その他委員会・プロジェクト活動	13
3.1. 表彰者選考委員会.....	13
3.2. 著作権活動(著作権委員会).....	13
3.3. 標準化活動(標準化委員会).....	13
3.4. 新規事業プロジェクト.....	14
3.5. ホームページコンテンツ・プロジェクト.....	14
4. 研究会活動	15
4.1. 日本オンライン情報検索ユーザー会(OUG).....	15
4.1.1. 化学分科会.....	15
4.1.2. ライフサイエンス分科会.....	15
4.1.3. 特許分科会.....	16
4.2. 専門部会(SIG).....	16

4.2.1. 技術ジャーナル部会.....	16
4.2.2. パテントドクメンテーション部会	17
4.2.3. 分類／シソーラス／Indexing 部会	18
4.2.4. ターミノロジー部会.....	18
4.3. 3i研究会.....	19
5. 調査・受託事業.....	20
5.1. ISO/TC37 及び ISO/TC46 国内委員会業務.....	20
5.2. その他の委託業務.....	21
6. 関連団体との連携.....	22
7. 事務局	23

1. 事業報告全般

1.1. 全般

2019年度は、収入42,330,025円、支出38,043,436円で結果として4,286,589円の黒字となった。昨年（収入39,742,183円、支出35,773,915円）より黒字幅は31万円ほど大きい。収入は昨年度比約258万円増となっており、支出も昨年度より約227万円増としての結果である。残念ながら収入は安定した協会運営が可能な水準には達していない。

収入増は、2018年度は1日開催であったシンポジウムが2日開催に戻ったこと（約125万増）、JSTからの調査業務やJIS規格作成の受託（約115万増）、およびISO国内対策委員会運営関連（約46万増）によるものが大きく、会誌関連、特に広告収入の減少（50万減）、検定試験関連の書籍の販売減（約50万減）その他での減少を補っている。

一方支出も、シンポジウム開催関連（約64万増）、JST調査業務関連（約52万増）、ISO関連（約31万増）、その他個々の項目での支出増などにより増加している。

収支が赤字予算から黒字に転じた大きな要素は、CBT方式による3級試験に関する初期費用の支出が2020年度に先送りされたことが大きい。このため2020年度においてはこの分を含めた支出増が見込まれる。

会員数については、新型コロナウイルス感染症の拡大による経済停滞の影響で、期末において、正会員が大きく減少し、維持会員、特別会員の機関会員も減少している。さらに、会誌購読者の減少も引き続き進行している。2020年4月以降も、新型コロナウイルス感染症拡大の余波を受けて、イベントの中止、延期、職員の在宅勤務移行などを余儀なくされることが予想され、今後の協会運営には一層の厳しさが予想される。

このような財政上の問題とそれに伴う予算上の制約等にも拘らず、全体的に充実した事業を推進することができたのは会員各位、特に理事、委員会関係者、その他の皆様の絶大なご尽力によるものと感謝している。

本年度の主な実績は次の通りである。

- ・会誌刊行事業については、前年に引き続き、会誌編集委員会の企画による多彩な特集テーマ（インフォプロのキャリア・スキルアップ、IPランドスケープ、電子ジャーナル出版、標準化など）を核として、安定した定期発行を達成した。連載では、オープンサイエンスの動向を主に扱った。
- ・研修事業については研修委員会や西日本委員会により企画・実施が行われ、「PubMed勉強会」「じょいんと懇話会」など会員の注目するセミナー、見学会を実施した。
- ・第16回情報プロフェッショナルシンポジウム（INFOPRO 2019）を協会主催で2019年7月4日と5日の二日間にわたって、科学技術振興機構の東京本部別館で開催した。二年ぶりの二日間開催である。9機関の協賛を受け、二つの特別企画、一般発表、トーク&トーク、展示、プロダクト・レビュー、情報交流会など多岐にわたるイベントを行い、大きな盛り上がりを見せた。
- ・検索技術者検定試験については、3級試験の長期低落傾向に歯止めをかけ、情報化時代にふさわしい試験形式の導入のその後の展開を見据えて、CBT試験の導入を推進した。来年度には、3級試験を会場型CBT試験で行うべく、準備を進めた。

- ・部会・研究会活動については、OUG（4分科会）、SIG（5部会）のそれぞれの分科会、部会における活動が継続して行われた（一部休会中）。3i 研究会は JST の協力のもと、多数の資源提供機関を得て、第7期の活動を行っている。第6期の活動については、2019年7月のシンポジウムで研究成果を発表した。第5期の成果については、2019年発行の会誌に論文が順次掲載された。

1.2. 2018 年度役員および担当

2019 年度役員一覧(50 音順)

役職	氏名	担当職務
理事（東日本）	岡田芳幸	調査、CBT 試験（副）、HP 担当（副）
	小河邦雄	試験実施（正）、CBT 試験（副）、運営部会
	長田孝治	専務理事（事務局長事務取扱委嘱）、運営部会
	佐藤京子	CBT 試験（正）、HP 担当（正）、研修・シンポジウム（副）、運営部会
	清水美都子	副会長、運営部会
	棚橋佳子	会誌（正）、研修・シンポジウム（副）、運営部会
	原田智子	副会長、運営部会
	増田豊	研修・シンポジウム（正）、CBT 試験（副）、運営部会
	松下茂	広報（正）、著作権、運営部会
	松田真美	CBT 試験（副）、新規事業（副）、広報（副）
	宮澤彰	OUG・SIG（正）、標準化
	望月聖子	試験実施（副）、CBT 試験（副）
	屋ヶ田和彦	知財担当、3i 研究会（正）
	山崎久道	会長、運営部会
	吉井隆明	新規事業（正）、会誌（副）
	吉野敬子	研修・シンポジウム（副）、3i 研究会（副）、OUG・SIG（副）
理事（西日本）	岡紀子	西日本、3i 研究会（副）
	田中邦英	西日本、CBT 試験（副）
	谷川淳	西日本、研修・シンポジウム（副）
	中野剛	西日本、試験実施（副）
監事	小田島互	
	角田裕之	

1.3. 会員異動

種別	2018年度末	入会	退会	増減	2019年度末
維持会員	49	1	3	-2	47
特別会員	69	0	4	-4	65
正会員	844	41	128	-87	757
準会員	6	1	2	-1	5
合計	968				874

注： 会員管理委託業者の変更に伴い 2019年6月に会員名簿を再確認したところ
43人の正会員減が確認されたため、その分が退会数に反映されている。

1.4. 総会

第62回定時社員総会は、2019年6月26日に開催された。

議題

1. 2018年度事業報告および決算報告(審議)
2. 2019年度事業計画および予算(報告)
3. 2019～2020年度役員選挙(審議)
4. 第44回情報科学技術協会表彰
 - 1) 情報業務功労賞 野崎 篤志氏(株イーパテント)
 - 2) 教育・訓練功労賞 原田 智子氏(鶴見大学名誉教授)
 - 3) 研究発表賞 大谷 周平氏(琉球大学)、坂東 慶太氏(名古屋学院大学)
対象論文 「論文海賊サイト Sci-Hub を巡る動向と日本における利用実態」
(情報の科学と技術. 2018, vol.68 no.10, 513-519)
 - 4) 優秀機関賞 TP&D フォーラム(整理技術・情報管理等研究集会)
 - 5) 協会事業功労賞 中江 貴彦氏(小野薬品工業(株))
5. 名誉会員推挙 該当者なし
6. 永年会員推挙 小倉三枝子氏(元国際稲研究所)、古賀 節子氏(元青山学院大学)
7. その他

1.5. 理事会

2019年度理事会は、4回開催された。

第1回 2019-07-10

役員選出、理事担務検討、CBT 試験導入ほか

第2回 2019-10-30

2020 シンポジウム、CBT 試験関連、グリーン OA ほか

第3回 2020-03-11

2020 事業計画・予算案検討、バナー広告掲載料ほか

第4回 2020-05-20

決算報告、2019 事業報告ほか

2. 事業活動

2.1. 会誌刊行事業

2.1.1. 会誌編集委員会

2019年度も安定した刊行(毎月1日発行)を達成することができている。会誌は特集を中心とした編集方針を採っているが、今年度もインフォプロの関心領域から様々な話題のトピックを取り上げることができた。特集テーマの検討に際しては、当協会の事業と関連する「インフォプロのスキルアップ」(4月号)や「用語管理と標準化」(9月号)を特集する一方で、「世界の科学技術政策の動向」(8月号)や「日本の電子ジャーナル出版」(11月号)など同分野の専門誌としての特性を活かした特集を改めて取り扱いつつ、さらに「進化する検索技術」(5月号)や「科学のなかの女性たち」(3月号)など、幅を広げるような特集の構成を取ることができたと言える。

例年どおり、他の委員会と連携した企画を実施した。パテントドキュメンテーション委員会からは「IPランドスケープ」(7月号)の企画検討、編集において全面的な協力を頂き、特集号を発行することができた。シンポジウム実行委員会からは「第16回情報プロフェッショナルシンポジウム」(12月号)特集号の発行に全面的な協力を頂いたほか、同シンポジウムの口頭発表者への投稿呼びかけを行って頂いた。今年度より研修委員会ともタイアップし、研修委員会が開催するセミナーの講演録を会誌に掲載する試みを開始した。初回は、1月に開催された新春セミナーの講演録が掲載される予定となっている。記事読者に有益な情報を届けるためにも、これらの連携企画については継続して実施したいと考えている。

その他の取り組みとして、「平成を振り返って」と題し、6月号/7月号にて歴代編集委員長のコラムを掲載した。関連して寄稿いただいた記事「平成30年間の『情報の科学と技術』の記事の傾向ー特集テーマを中心にー」と合わせ、会誌にとって貴重なアーカイブとなるだろう。また、12月号では「小特集：科学技術イノベーションの潮流～研究開発の俯瞰から見えるもの～」を企画し、シンポジウムの特別セッションと連動した形で記事を多数掲載することができた。さらに、2月号及び3月号では新たに「部会紹介」コーナーを設け、パテントドキュメンテーション部会(SIG)及び分類/シソーラス/Indexing部会の紹介記事を掲載するなど、より当協会の機関誌としての特徴を前面に押し出しつつ、会員相互の交流を目的とした投稿記事の呼び水となる取り組みを始めている。

【特集】

年	号	特集タイトル
2019	4月号	インフォプロのスキルアップ
2019	5月号	進化する検索技術
2019	6月号	地理空間情報と地理情報システム(GIS)
2019	7月号	IPランドスケープ
2019	8月号	世界の科学技術政策の動向
2019	9月号	用語管理と標準化
2019	10月号	世界の産業財産権のいま

2019	11月号	日本の電子ジャーナル出版
2019	12月号	第16回プロフェッショナルシンポジウム
2020	1月号	東京オリンピック1964-2020
2020	2月号	家具—図書館を支えるわき役たち
2020	3月号	科学のなかの女性たち

【連載・コラム】

2018年度に引き続き、連載「オープンサイエンスのいま」を3名の著者による持ち回りで実施した。昨年度の反響を踏まえ、今年度の同連載は全てフリーアクセスとした。また、新たな連載「情報を計測し、法則化する～今に活かせる計量情報学の経験則」が11月号より開始した。

- オープンサイエンスのいま(2018年4月号～2020年3月号)
- 情報を計測し、法則化する～今に活かせる計量情報学の経験則
(2019年11月～継続連載中)
- INFOSTA Forum(不定期連載中)

特集原稿及び連載以外の記事としては、会員からの投稿記事を22本、書評を7本掲載した。昨年度に引き続き投稿記事数が伸びを見せており、3i研究会報告、集会報告等が幅広く投稿されている。

【委員会・会議開催実績】

回	開催日	主な議題	会場
1	2019-04-03	定例委員会	文京シビックセンター
2	2019-05-08	定例委員会	文京シビックセンター
3	2019-06-05	定例委員会	情報科学技術協会
4	2019-07-03	定例委員会	情報科学技術協会
5	2019-08-07	定例委員会	情報科学技術協会
6	2019-09-04	定例委員会	情報科学技術協会
7	2019-10-02	定例委員会	情報科学技術協会
8	2019-11-06	定例委員会	情報科学技術協会
9	2019-12-05	定例委員会・企画会議	文京総合福祉センター
10	2020-01-08	定例委員会	情報科学技術協会
11	2020-02-05	定例委員会	情報科学技術協会
12	2020-03-04	定例委員会	Web会議

【委員会の体制等】

会誌編集委員会では会誌編集協力員(2020年3月現在4名)を置いており、電子メール、企画会議への参加等を通じてコメントをいただき、実務視点に捉われないう多角的な情報の把握に努めている。編集作業の効率化の観点から、昨年度に引き続きオンラインのチャットツール活用、マニュアルの整備を行っている。3月に

は新型コロナウイルスの影響により対面での委員会開催が困難になったため、Web会議システムで委員会を実施した。

その他、会誌経営委員会には2名の委員が参画し、多様な視点から会誌の在り方等について検討を進めるとともに、投稿の手引き改訂、J-STAGE上でのお勧め記事掲載及びアクセス解析といった面で緊密な連携のもと具体的な活動を行っている。

2.1.2 会誌経営委員会

会誌経営委員会は、会誌編集委員会、事務局と連携して、会誌に関わる諸業務の健全な運営のための施策、記事構成に関する方針、特集以外についての具体的な記事内容、読者増加に向けての施策などの策定と実施の監督を行うことを任務とする。

2019年度は、事業計画に基づいて以下の活動を行った。

(1) 会誌記事に関する検討と企画

(a) 連載記事の企画と編集

「情報を計測し、法則化する～今に活かせる計量情報学の経験則」について企画を行い、2019年11月号から連載を開始した(2020年度半ばまで継続予定)。この記事の校閲は、委員、担当理事が分担して行っている。他の案についても検討を行い、「情報科学技術に関する識別子」の連載を2020年5月号から開始の予定である。なお、2018年4月号から連載していた「オープンサイエンスのいま」は、2020年3月をもって一旦休止した。

(b) 投稿論文の量的・質的充実に関する検討

SIG担当理事の協力を得て、2つのSIG部会からその活動についての記事を掲載した。

INFOPROシンポジウム実行委員会の協力を得て、INFOPRO2019での発表者4名から発表に基づく論文を投稿してもらい、会誌編集委員会の校閲の後掲載された。また、INFOPRO2019での特別企画を基に、JST研究開発戦略センター(CRDS)の執筆者による小特集「科学技術イノベーションの潮流～研究開発の俯瞰から見えるもの～」を2019年12月号に掲載した。

研修委員会と議論し、今後開催される各種セミナーの講演録を記事として掲載する仕組みを整えた。1月24日セミナー分より試験的に実施している。

その他の方策についても検討を継続した。

(2) 会誌記事の公開に関する検討

会誌の可視性を増して会員増を図るとともに会員のメリットを大きく減少させないことを前提に、エンバーゴ対象の一部記事の即時公開、エンバーゴ期間の短縮、ペイ・パー・ビューの実施等を検討したが、成案を得るには至らなかった。

著者自身による執筆記事の機関リポジトリ等での公開(グリーンOA)についてのガイドライン案をまとめ、理事会に提案したが、特にエンバーゴ対象記事の公開解禁時期について議論があり、委員会案とはやや異なる審議結果となった。

(3) 会誌の中長期的な位置づけ

協会の活動状況、会員構成、会誌への潜在的ニーズ等を勘案して今後の会誌の在り方を探るという目的に対し、現在INFOSTAがカバーしていない業界での潜在的ニ

ーズ、その業界層への浸透の方策につき検討した。また、J-STAGE アクセス統計の分析結果を検討した。しかしそれ以上の進捗はなく、2020年度の課題とする。

(4) 会誌の経営状態改善のための検討

2018年度最後の理事会（2019年3月）で「会員の会費・特典と非会員への会誌販売について」を提案し、理事会での検討結果を踏まえて会誌に関する事項を検討する予定であったが、その後理事会で検討が行われず、委員会でもこれについての検討は休止した。（3）で述べた潜在的ニーズの発掘の検討が進めば、本項の目的にも資すると考えられる。

(5) その他

協会ホームページの管理・更新について広報委員会と協力し、会誌ページの一部についてリニューアルに向けた議論を行った。

【委員会開催実績】

回	開催日	主な議題	会場
1	2019-05-21	連載企画、一部記事の即時公開、グリーンOA、投稿充実策	協会会議室
2	2019-07-29	一部記事の即時公開、グリーンOA、投稿充実策、会誌ページ更新	協会会議室
3	2019-10-28	連載企画、一部記事の即時公開、グリーンOA、投稿充実策	協会会議室
4	2020-03-30	（2020-02-27開催予定であったが、新型コロナウイルス流行のため延期してWeb会議とする）	Web会議

2.2 普及研修事業

2.2.1. 研修委員会

①委員会開催状況

以下の日程で開催した。

第1回2019年4月23日、第2回2019年6月11日、第3回2019年8月22日、第4回2019年11月1日、第5回2020年1月15日、

【中止】第6回2020年3月3日(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため)、第6回2020年4月14日(onlineで開催)

②活動状況

- ・ 2019.6.11 『基礎から学ぶ！情報収集・活用術：検索「超」入門』
講師：原田 智子 氏（鶴見大学名誉教授） 会場：日本図書館協会 参加者：22名
- ・ 2019.10.18 『専門図書館協議会との合同見学会』
見学先：国立国会図書館関西館、オムロン京阪奈イノベーションセンター 参加者：21名（内 INFOSTA8名）
- ・ 2019.10.28 「ヘルスイノベーション・リテラシー講座 信頼できる情報の見極め方！」講師：南郷栄秀氏（地域医療機能推進機構 東京城東病院総

合診療科)、鈴木博道(NPO 法人日本コクランセンター)

会場:日図協2階 参加者25名

- ・ 2019.12.12 ライフサイエンス分科会 公開講座『PubMed 勉強会 —MeSH2020年版と新PubMed—』 講師:阿部 信一氏(東京慈恵会医科大学 学術情報センター) 会場:日図協2階 参加者60名
- ・ 2020.1.24 新春セミナー『情報調査・分析およびインフォプロの今後—知財業界のIP ランドスケープを踏まえて』 講師:野崎篤志氏(株イーパテント) 会場:日図協2階 参加者40名)

2.2.2. シンポジウム実行委員会

①委員会開催状況(2018年12月~2020年5月)

第1回 INFOPRO2019 実行委員会 2018年12月3日(19:00-21:00)

第2回 INFOPRO2019 実行委員会 2019年1月21日(18:30-21:00)

第3回 INFOPRO2019 実行委員会 2019年3月6日(18:30-21:00)

第4回 INFOPRO2019 実行委員会 2019年4月26日(18:30-21:00)

第5回 INFOPRO2019 実行委員会 2019年7月3日(18:30-20:30)

第6回 INFOPRO2019 実行委員会 2019年8月7日(18:30-20:30)

第1回 INFOPRO2020 実行委員会 2019年11月25日(18:30-21:00)

第2回 INFOPRO2020 実行委員会 2019年12月19日(18:30-21:00)

第3回 INFOPRO2020 実行委員会 2020年2月19日(18:30-21:00)

第4回 INFOPRO2020 実行委員会 2020年4月13日(18:30-21:00 / Zoom Meeting)

第5回 INFOPRO2020 実行委員会 2020年5月14日(18:30-21:00 / Zoom Meeting)

②活動状況

第16回情報プロフェッショナルシンポジウム(INFOPRO2019)を国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)の協力を得て、2019年7月4、5日の2日間、JST 東京本部別館(K's 五番町)を会場とし開催した。従来、著名なスピーカーを招聘した特別講演を核にプログラムを構成することが多かったが、その代わりにJST 研究開発戦略センター(CRDS)からの発表や、OUG ライフサイエンス分科会による企画を盛り込み、より実益性の高い内容にすることができた。また、プロダクトレビューを全体会議化し聴講者による投票制を採り入れたことで、傾聴率を上げスポンサーの商品アピール効果の向上を図った。新たな企画を試す中、盛会裏に終えることができた。

来年度もJSTの協力を得て7月2日(木)~3日(金)で開催する予定で11月より実行委員会による準備を進めているが、新型コロナの感染拡大を受け参集型のイベントの開催可否が不透明な中、どのような形態で実施するべきか検討中である。

(詳細は事業計画参照。)

2.2.3. 試験実施委員会

①委員会開催状況

- ・ 181回(2019-04-16)分科会との意見交換会、分科会人選検討

- ・ 182 回 (2019-05-21) CBT プロジェクト現状報告、分科会進捗、公開解答例進捗
- ・ 183 回 (2019-06-25) 受験案内及びポスターの確認、CBT プロジェクト報告、1 級一次試験について、実施委員会及び分科会の人選、公開解答例進捗
- ・ 184 回 (2019-07-18) 検索技術者検定の PR チラシについて、CBT 導入分科会について、1 級一次試験について、試験実施委員会および分科会人選の件
- ・ 185 回 (2019-09-17) 検索技術者検定の PR チラシについて、CBT 導入分科会関連、1 級試験について、試験までのスケジュール等確認
- ・ 186 回 (2019-10-30) 障がいのある方への対応について、テキスト改訂への対応、CBT 導入分科会関連、今後のスケジュール
- ・ 187 回 (2019-12-11) 3 級合否判定、1 級二次面接関連討議、CBT 導入分科会関連
- ・ 188 回 (2020-01-14) 1 級一次合否判定、1 級二次試験面接官の人選、試験 HP の掲載内容確認
- ・ 189 回 (2020-01-28) 2 級合否判定、公開解答例、HP 掲載内容、CBT 導入分科会関連、分科会メンバー人選の検討
- ・ 190 回 (2020-02-12) 1 級二次合否判定、CBT 導入分科会関連

②活動状況

1 級一次試験方法の変更実施：

昨年度より検討していたが、1 級一次試験を論文形式のみに変更、実施した。変更にあたっては、採点方法についても議論・検討し、対応した。

3 級試験の CBT 方式導入：

昨年度の CBT プロジェクト報告をうけて、正式に CBT 方式を導入することになり、CBT 導入分科会が発足、当委員会と連携して CBT 方式導入に向けて活動を行った。CBT 導入分科会の活動については、別途記載。

実施委員会メンバー：

2 名退任をうけ、メンバー増強を検討したが、1 名の増加にとどまった。

委員会以外の活動：

- 合格を祝う会は、東京：3/4（水）、大阪：3/7（土）を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止された。

2.2.4. CBT 導入分科会

① 委員会開催状況

- ・ 1 回 (2019-09-12) CBT プロジェクト提案の確認、試験運営に関する諸事項検討、今後の進め方
- ・ 2 回 (2019-11-22) 契約内容確認、スケジュール確認、検索技術者検定収支予測、
- ・ 3 回 (2019-01-31) 進捗確認、検索検定ロゴの件、広報関連、スケジュール確認
- ・ 4 回 (2020-02-17) 進捗確認、広報関連、スケジュール確認

② 活動状況

CBT 試験業者の選定：

(株) イー・コミュニケーションズに決定、契約書確認、「検索検定」用ページの準備等を始めた。

検索検定ロゴ：

「検索検定」を検索技術者検定の略称とし、ロゴを設定、各広報に用いることとした。ロゴは、商標登録申請中。

広報関連：

3級のCBT方式導入にあたり、会誌やHPでの宣伝、INFOPROでの発表等広報に力を入れることとした。また、文科省後援申請準備中。

2.2.5. 広報活動 (広報委員会)

① 委員会開催状況と主な議題

- ・ 2019年度第一回委員会 5月20日(月) 18:30~20:30
- ・ 2019年度第二回委員会 7月24日(水) 18:30~20:30
- ・ 2019年度第三回委員会 10月29日(火) 18:30~20:30

② 活動状況

- ・ ホームページプロジェクトへの委員派遣とHPトップページの変更案を作成。
- ・ ホームページプロジェクトと共同でHPへのロゴ掲載価格案を検討し、理事会へ諮る。
- ・ 2019年度開催のINFOPROシンポジウム実行委員会に委員を派遣する。
- ・ INFOPROの予稿集の表紙作成および予稿集に関するツイートを行なう。
- ・ INFOPROでの3i研究会第7期事前ガイダンスの動画を委員外の協力を得て撮影し、YouTubeで公開する。
- ・ 広報関連資材作成と修正(A4リーフレット修正)案を作成する。
- ・ 関連団体のイベントで広報用A4リーフレットを配布(または設置)する。
- ・ 日本図書館協会全国大会(11月、三重県)に向けて担当者を設けて、リーフレット配布、報告集への広告を掲載する。
- ・ TwitterによるINFOSTA各行事やシンポジウムの広報を適宜発信する。
フォロワーは360となる(2020年3月4日現在、参考:2019年5月332)

2.2.6. 西日本委員会

① 委員会開催状況

- 2019-05-17：第196回西日本委員会(大阪市立総合生涯学習センター)
- 2019-07-19：第197回西日本委員会(大阪市立難波市民学習センター)
- 2019-09-20：第198回西日本委員会(大阪市立難波市民学習センター)
- 2019-12-05：第199回西日本委員会(大阪市中央公会堂)
- 2020-02-20：第200回西日本委員会(大阪市立難波市民学習センター)

② 活動状況(理事会に報告すべき事項)

- 2019-09-14 -15：サーチャー講座 21
- 2019-10-26：検索技術者検定3級対策セミナー
- 2019-11-08：京都府立京都学・歴彩館および京都府立大学図書館見学会
- 2019-12-05：情報と人をつなぐ じょいんと懇話会

※ 例年行われている検索技術者検定「合格を祝う会」は新型コロナウイルスの影響で中止。来年 2019 年度、2020 年度合格者合同で開催することに。

3. その他委員会・プロジェクト活動

3.1. 表彰者選考委員会

2020 年 4 月 8 日（水）に第 45 回（2020 年）表彰者選考委員会を開催した。以下の各賞が理事会で承認された。

○情報業務功労賞

屋ヶ田 和彦氏（住ベリサーチ株）

○教育・訓練功労賞

藤井 信栄氏（元ファイザー株）

○研究発表賞

佐藤 翔氏（同志社大学）、林 豊氏（執筆時 九州大学）、池内 有為氏（文教大学）、尾城 孝一氏（国立情報学研究所）

対象論文 連載「オープンサイエンスのいま」

（情報の科学と技術. 2018, Vol. 68 No. 4, ~ 2020, Vol. 70 No. 3）

○優秀機関賞

該当なし

○協会事業功労賞

板橋 慶造氏（元日本原子力研究開発機構図書館）

須藤 健次郎氏（株発明通信社）

○名誉会員

該当なし

○永年会員

高橋 晴子氏（国立民族学博物館 学術資源研究開発センター）

辻川 剛由氏（元株情報管理研究社）

3.2. 著作権活動（著作権委員会）

①委員会開催状況

- ・ 委員会開催 2020 年 3 月 17 日 18:30-20:30
→ 新型コロナウイルスの影響で中止となる。

②活動状況（理事会に報告すべき事項）

- ・ 委員の移動や各委員が多忙であるため、審議事項についてはメールで確認を行なう。あまり活発な動きとなっていない。

3.3. 標準化活動(標準化委員会)

① 委員会開催：2 回（2019 年 7 月 5 日(拡大)、2019 年 12 月 5 日）

② 活動状況

(1) a) 国際標準化 ISO/TC37 および TC46 の国内審議団体引き受け, b) JIS 策定, 見直しへの協力, c) 協会独自の標準化活動を柱とする。

(2) ISO/TC37, ISO/TC46 の国内審議団体の事務局としての活動をサポートした。

- (3) TC46 分野において新規国際標準開発の提案を経済産業省に対し行った。結果は不採択であった。
- (4) JIS X 0304:2011 国名コードの改訂原案作成を行い、最終案を 2020 年度早々に提出予定である。
- (5) JIS X 0305:1999 国際標準図書番号 (ISBN) の改訂原案作成を行った、
- (6) JIS X0307 国際十進分類法 (UDC) の改正案作成を行い、最終案を 2020 年度早々に提出予定である。
- (7) ISO 17100:2015 (翻訳サービス—翻訳サービスの要求事項) の JIS 化について応募し、原案作成中である。JIS Y 17100 となる予定である。
- (8) ISO 10241-2:2012 Terminological entries in standards -- Part 2: Adoption of standardized terminological entries の JIS 化について日本規格協会に応募したが関係する範疇が大きいとの理由で採択に至らなかった。
- (9) JIS 法の改定に伴い JIS 認定機関 (日本規格協会) と INFOSTA の間で協定関係の登録を行った。
- (10) ISO/TC37 および TC46 国内審議委員会運営規定を改訂した。
- (11) ISO 事務局関連で知財運営委員会の制定が必要となり対応を行った。
- (12) 日本規格協会の産業標準作成委員会 (情報分野) へ安形委員の派遣を行った。

3.4. 新規事業プロジェクト

新企画の「知的財産管理技能検定三級対策セミナー」は、5月11日に第一回を実施した。第二回目の実施を11月5日に企画したが、申込者が思わしく集まらないため延期とし、翌年の2月1日に第二回目を実施した。本セミナーの売りは、セミナー開催日の約2.5カ月前に実施された検定試験の詳細な解説版を配布することから、セミナー資料作成には多大な労力を要した。しがたって、2019年度活動は新企画に全力を注いだ。新企画のセミナー参加者は以下のとおりである。

- ・ 2019年5月11日：
第一回知的財産管理技能検定三級対策セミナー実施 (申込者9名)
- ・ 2019年11月5日：
第二回知的財産管理技能検定三級対策セミナー延期 (申込者5名以下のため)
- ・ 2020年2月1日：
第二回知的財産管理技能検定三級対策セミナー実施 (申込者15名)

3.5. ホームページコンテンツ・プロジェクト

- ・ 協会のホームページ (<http://www.infosta.or.jp>) の更新、管理は「ホームページ運用内規」に基づき、会長が全体管理責任者となり事務局及び広報委員会が全体の更新責任者を務め、各委員会からのホームページ更新責任者、更新担当者により順調に行われた。
- ・ 広報委員会と共にトップページの改善案、バナー広告案を検討した。なお、プロジェクトとしての活動は終了した。

4. 研究会活動

4.1. 日本オンライン情報検索ユーザー会(OUG)

4.1.1. 化学分科会

休会中

4.1.2. ライフサイエンス分科会

(主査：廣谷映子氏、8回開催、第2木曜日開催、5, 8, 11月休会、3月度は新型コロナウイルス感染防止の為に中止)

1. 2019年度事業報告

2019年4月度(第367回)ライフサイエンス分科会

開催日時：2019年4月18日(木) 14:00～17:00

開催場所：日本図書館協会会館5階 会議室

参加人数：11名

内容：株式会社グローバルインフォメーションの提供サービスのご紹介及び、年間契約型情報サービス『メッドデバイストラッカー』、『Epiomic 疾患・治療区分別患者人口データベース』

2019年6月度(第368回)ライフサイエンス分科会

開催日時：2019年6月20日(木) 14:00～17:00

開催場所：日本図書館協会会館5階 会議室

参加人数：18名

内容：第16回情報プロフェッショナルシンポジウム INFOPR02019 内での OUG 企画” The

「医学文献データベース」その中身と違いを検証する(国内編)”の事前準備

2019年7月度(第369回)ライフサイエンス分科会

開催日時：2019年7月5日(金) 14:00～15:30

開催場所：第16回情報プロフェッショナルシンポジウムB会場

参加人数：70名

内容：The 「医学文献データベース」その中身と違いを検証する(国内編)

2019年9月度(第370回)ライフサイエンス分科会

開催日時：2019年9月19日(木) 14:00～17:15

開催場所：東京大学

参加人数：10名

内容：東京大学 附属 図書館(総合図書館と別館、医学図書館、薬学図書館)の見学

2019年10月度(第371回)ライフサイエンス分科会

開催日時：2019年10月17日(木) 14:00～17:00

開催場所：日本図書館協会会館2階 研修室

参加人数：14 人

内容：「MEDLINE 収録 国内医学雑誌の経年分析」について、「PubMed Labs」関連まとめ

2019 年 12 月度（第 372 回）ライフサイエンス分科会 【公開講座】

開催日時：2019 年 12 月 12 日（木） 14:00～16:30

開催場所：日本図書館協会会館 2 階 研修室

参加人数：61 名

内容：PubMed 勉強会－ MeSH2020 年版と新 PubMed－（公開講座）

2020 年 1 月度（第 373 回）ライフサイエンス分科会

開催日時：2020 年 1 月 16 日（木） 14:00～17:00

開催場所：日本図書館協会会館 5 階 会議室 4

参加人数：7 名

内容：「研究倫理と不正」「医中誌 Web バージョンアップの予定」「SLA2019 Annual Conference & INFO EXPO 参加報告」

2020 年 2 月度（第 374 回）ライフサイエンス分科会

開催日時：2020 年 2 月 20 日（木） 14:15～17:00

開催場所：日本図書館協会会館 5 階 会議室 4

参加人数：5 名

内容：「DRUGDEX®」をはじめとした「IBM Micromedex®」

4.1.3. 特許分科会

主査：幹事会メンバーで交代制（10 回/年 第 2 金曜日開催、8、3 月休会）

検索演習 6 回、講演会 2 回、その他 2 回（ミックスあり）

4.2. 専門部会 (SIG)

特定の分野または専門技術に関心を持つ会員が自由に参加し研さんを積む場として以下の 4 つのグループがそれぞれ自主的に年間の活動テーマを企画して活動した。いずれの部会でもメンバーはほぼ固定であり、安定はしているが発展性に乏しいという問題がある。

4.2.1. 技術ジャーナル部会

（会員企業：8 社。コアパーソン：持ち回り。3 月度は新型コロナ感染防止の為に中止、計 5 回開催）

部会は、担当幹事が用意した設問に沿って各社がそれぞれの現状を発表し、それに対して質疑応答を行うという形で進めた。

【議題】

1. 各社現状発表

- ・ 5 月度：1. 著作権について 2. 商標の記載方法 3. 技術資料の役割
- ・ 7 月度：1. 図版の体裁（提出時・編集時）について 2. 特集の企画および掲

載原稿決定方法

- ・ 9 月度： 技報制作のスケジュールと事務局の作業内容
- ・ 11 月度： 1. 執筆依頼時に執筆者宛に送付する書類 2. 投稿要領（執筆要領）について
- ・ 1 月度： 1. 技報（冊子体&Web 版）発行（発信）の社内外への通知，連絡 について
- 2. 技報以外の技報情報の発行（発信）について

4.2.2. パテントドクメンテーション部会

（会員：4 名 コア パーソン：桐山 勉氏 毎月開催）

- ① INFOPRO2019 においては、A44 一般発表として、「空飛ぶタクシーに関する IP ランドスケープ研究—PDS法と俯瞰可視化と数値化特許価値評価」を行った。
- ② 協会のホームページに組み込まれたパテントドクメンテーション部会のホームページにて、活動状況を（毎年複数回更新して）継続公開した。
<https://www.infosta.or.jp/research/sig-pat/>
- ③ 外国専門誌による勉強：
 - ・ World Patent Information 専門誌のトピックス記事を使い、記事紹介輪講会を行った。輪講会がメンバーの研鑽に役立っている。コアパーソンが WPI 専門誌の Editorial Advisory Board に 2014 年 10 月から就任したので、WPI 専門誌の勉強会がしやすくなった。
<https://www.sciencedirect.com/journal/world-patent-information/about/editorial-board>
- ④ 外部知的財産団体への協力；INFOSTA-PD 委員会に実行委員会 1 名参加
 - ・ 会誌 情報の科学と技術 70(2)に、「INFOSTA-SIG-パテントドクメンテーション部会の活動紹介」を報告。
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jkg/70/2/70_102/_article/-char/ja
 - ・ 会誌 情報の科学と技術 69(7)に、「特集号「IP ランドスケープ」の編集にあたって」を企画参加。
- ⑤ メンバー間のトピックス情報交換
 - ・ 米国 PIUG2019、EMW2019、EPOPIC2019、CPAC2019 などの関連詳細情報をメンバー間で交換。その他、国内の色々な勉強会でメンバーが参加しているものの相互紹介など。
- ⑥ プロバイダーデモ勉強会の実施
 - ・ アイ・ピー・ファイン社の THE 調査力と Deskbee の無料 ID を貸して頂き、デモ実施（2019 年の PDG 部会にて）
 - ・ Clarivate Analytics 社の Derwent Innovation および PatentSight Japan 社の PatentSight を試行させて貰い、「空飛ぶタクシーに関する IP ランドスケープ研究」を行った。
- ⑦ 新型コロナウイルスの影響で、テレワークスになってからは、ZOOM 会議にて 2020 年 3 月度の PDG 部会を実施した。

4.2.3. 分類／シソーラス／Indexing 部会

(コアパーソン：山崎久道氏 6回開催)

① 会開催報告

回	開催日	テーマ	会場	参加者
1	2019/4/19	INFOPRO2019 のポスター発表内容検討	INFOSTA	11
2	2019/7/19	INFOPRO2020 のポスター発表について、会誌への投稿要請への対応	INFOSTA	10
3	2019/9/27	「本の索引」の研究についての今後の進め方とまとめ方、UDC についての会誌への投稿執筆分担	INFOSTA	9
4	2019/11/29	合宿企画案検討、索引作成図書を選定、部会創立 350 回記念パーティ	INFOSTA	13
5	2020/1/17	索引作成実験のやり方について	INFOSTA	11
6	2020/ 3-13/14	索引作成実験の評価(合宿)(延期)	厚木	—

② 活動状況

- ・前年度に続いて、索引評価を行い、その成果として、「本の索引は必要か」と題して INFOPRO2019 にてポスター発表した。
- ・索引のない図書を各分野にわたって持ち寄り、その中から 3 点を選び、3 グループに分かれて、研究成果を参照し、各グループ独立で索引付けを行った。
- ・その結果の評価を、年度末の合宿で行う予定であったが、新型コロナウイルス感染防止のため延期、2020 年度に実施する。
- ・今年度には、部会創立以来、会合数 350 回に達した。
- ・会誌 2020, vol. 70, no. 3, p. 154-155 に、「部会紹介 今の時代に、なぜ分類にこだわるのか—分類／シソーラス／Indexing 部会のご紹介に代えて—」(山崎、戸塚)を発表した。

4.2.4. ターミノロジー部会

(部会員：9名 コアパーソン：長田孝治氏 年6回開催)

設立の趣旨：情報科学技術の基礎領域に位置づけられるターミノロジーについて、その理論および実際に関する学習および研究をおこなうことを目的として、2004年5月に設立した。原則として隔月開催であるが、2019年度は2回の実施に留まった。

JIS法の改正に伴い、2019年8月～11月にかけて、過去に日本がISO提案を行った ISO 10241-2 Terminological entries in standards - Part 2: Adoption of standardized terminological entries

の JIS 化についての提案と調整を行った。経産省、規格協会ともに必要性の理解は得られたが、ISO 本部などで追加された ISO 規格との一致に対する規程が、そのままではあまりにも JIS 規格に対する影響が大きいため、当面技術的な検討にとどめることとなった。

①例会開催報告

回	開催日	テーマ	会場	参加者
86	2019-12-06	言語コードの JIS 化経緯について ISO 10241-2 の JIS 化提案・経緯説明	協会会議室	9
87	2020-01-24	ISO 17100:2015（翻訳サービスー翻訳サービスの要求事項）の JIS 化にあたって、用語定義部分の意見交換	協会会議室	8

4.3. 3 i 研究会

① 委員会開催状況

第 7 期の活動は、2019 年 8 月～2020 年 2 月までとし、月 1 回（基本的に、東京：第 2 木曜日、大阪：第 3 火曜日）にリーダー会議および全体会合を実施した。

第 7 期のグループ編成は、東京 2 グループ、大阪 3 グループである。

② 活動状況

(1) INFOPRO での発表

2019 年 7 月 4 日に、第 6 期活動の成果を INFOPRO セッション A1 にて下記のテーマで発表した。

A11 先端技術トピックにおける技術動向分析および技術動向予測

A12 特定企業の戦略的特許出願網の分析

A13 A社に学ぶ持続的イノベーションのヒント

A14 メンタルヘルスケア領域における新規サービスの提案

A15 新規開発テーマ探索手法の検討

(2) 第 7 期中間進捗報告：2020 年 2 月 13 日、東京・大阪合同の最終報告会を実施した。

各グループの研究テーマは、以下のとおりである。

東京 A 社会課題を題材とした新規課題の抽出

ー市議会議事録を用いた高齢化に関する課題抽出ー

東京 B S社の自転車部品市場における知的財産戦略

大阪 A 先端技術トピックにおける技術動向および技術動向予測

ー睡眠サービスの現状と今後期待されるものー

大阪 B 「陸上養殖」を題材に未来予想から新たな課題を見つける

大阪 C 情報分析より考察するコモディティ市場への新規参入戦略

(3) 会誌への掲載

第 6 期の活動成果は、2020 年 1 月号より、順次 1 テーマずつ会誌へ掲載している。

・先端技術トピックにおける技術動向および技術動向予測

- 家庭用ロボットの将来像を俯瞰した投資技術選定— 会誌. 2020, 70(1), 34.
- ・メンタルヘルスケア領域における新規サービスの提案. 会誌. 2020, 70(2), 90.
- ・新規開発テーマ探索手法の検討～α発想法の利用～.
会誌. 2020, 70(3), 149.
- ・特定企業の戦略的特許出願網の分析～日本における介護入浴装置の事例～.
会誌. 2020, 70(4), 211.
- ・市場シェアに知的財産情報を関連づけるイノベーションのための分析方法.
会誌. 2020, 70(5), 266.

(4) 第8期の計画

第8期の活動計画に関しては、担当理事の交代後に行う予定。

(5) 第7期の成果発表

INFOPROにて、第7期の研究成果を発表予定。

第7期の成果は会誌に掲載すると共に、その他の学会、研究会の場においても成果を積極的に発表する事を促す。

5. 調査・受託事業

5.1. ISO/TC37 及び ISO/TC46 国内委員会業務

国際標準化機構 (ISO) の「情報とドキュメンテーション」(TC46)及び「専門用語及び他の言語、情報内容の資源」(TC37)に関する国内委員会業務を、2013年度より担当している。

(1) 国際標準化 TC37 ((株) 三菱総合研究所からの委託により実施)

本委員会(井佐原 均委員長)の下に、SC1(専門用語作成の原則と手法)、SC2(用語辞書編纂方法)、SC3(用語、情報、内容の管理システム)、SC4(言語資源マネジメント)、SC5(翻訳、通訳及び関連技術)の5つのSC国内委員会を置き、総会(2019年6月、オタワ)への委員派遣、国際電子投票案件の審議・投票(40件)等を実施した。

本年度は、以下の5項目のテーマについて、標準化を進めた。

- 【1】言語構造と意味表現との対応関係に関する標準化
- 【2】技術文書における多言語用語の標準化
- 【3】技術文書の翻訳のための制限言語の標準化
- 【4】文書コンテンツのアノテーションに関する標準化
- 【5】制限言語の基本原理に関する標準化

- ・ 国内審議委員会3回(2019年5月20日, 2019年11月1日, 2020年1月30日)
- ・ 投票数43(NP: 7, CD: 6, DIS: 7, FDIS: 7, SR: 4, CIB: 12)の回答作成
- ・ TC37国際会議への委員派遣

(2) 国際標準化 TC46

本委員会(宮澤彰委員長)の下に、SC4(技術的相互運用性)、SC8(品質一統計及び性能評価)、SC9(識別と記述)、SC11(アーカイブズ/記録管理)の4つのSC国内委員会を置き、総会(2019年5月、オタワ)への委員派遣、国際電子投票案件の審議・投票(77件)等を実施した。

- ・ 国内審議委員会 TC46 本委員会 2回 (2019年6月11日, 2020年1月21日),
投票数 28 (NP:3, CD:4, DIS : 3, SR: 1, CIB: 17)
- ・ 国内審議委員会 TC46/SC4 分科委員会 2回 (2019年6月19日, 2020年2月12日),
投票数 16 (NP:1, DIS:1, FDIS:1, SR: 9, CIB: 4)
- ・ 国内審議委員会 TC46/SC8 分科委員会 1回 (2019年7月16日)
投票数 8 (NP:1, SR: 2, CIB: 5)
- ・ 国内審議委員会 TC46/SC9 分科委員会 2回 (2019年6月18日, 2020年1月28日)
投票数 15 (DTR:3, NP: 1, CD: 1, DIS : 2, FDIS:1, SR: 2, CIB: 5)
- ・ 国内審議委員会 TC46/SC11 分科委員会 2回 (2019年7月1日, 2020年2月4日,
投票数 10 (DTR:1, CD: 1, DIS : 3, SR:1, CIB:4))

5.2. その他の委託業務

国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) から JST の資産である J-DreamⅢについて、検索だけではなく、より高度な分析など利用方法を調査し、その結果をもとに分析で活用する方法を提供側からではなくユーザー側からの提言を行った。調査に当たっては岡田理事をリーダーとする作業チームにより実施した。

(1) 作業期間

2019年8月1日 ~ 2020年3月

2020年3月18日納品後、問合せ対応~修正指示等を反映した。

(2) 調査報告書内容 (目次より抜粋)

第1章 はじめに

第2章 調査・分析の方法と結果

2.1 収録情報

2.1.1 国内誌の収録状況

2.1.2 国内誌、国外誌の収録文献数年推移と分類別収録

2.1.3 インパクトファクターの高い文献の収録状況と PubMed との比較

2.1.4 国内誌収録文献数の他データベースとの比較

2.1.5 図書館情報学分野における外国コア誌のカバレッジ調査

2.2 収録項目

2.2.1 分類と索引語の検証

2.2.2 JST 分類への付与論文数分布の不均等性(集中度)調査

2.2.3 機械翻訳による和文タイトルと和文抄録の評価

- 2.3 検索、出力、検索補助の機能
- 2.4 情報分析機能 可視化機能について
- 2.5 インターフェース
- 2.6 他のデータベースシステムとの比較のまとめ
- 第3章 提言まとめ・後記
 - 3.1 資料と記事の収録について
 - 3.2 メタデータ購入外国誌論文の分類、索引語、抄録について
 - 3.3 分類表について
 - 3.4 検索、出力、検索補助の機能と画面インターフェースについて
 - 3.5 情報分析機能 可視化機能について
 - 3.6 その他の事項について
 - 3.7 第2章で述べていない事項について
 - 3.8 終わりに

6. 関連団体との連携

① 会員としての加入

- ・一般財団法人機械振興協会協賛会員（継続）
- ・国立研究開発法人科学技術振興機構賛助会員（継続）
- ・東京商工会議所賛助会員（継続）

② 他団体との共催

- ・第105回全国図書館大会(2019-10-29/30)
- ・じょいんと懇話会(2019-12-05)

③ 他団体から後援を受けたもの

第16回情報プロフェッショナルシンポジウム（INFOPRO2019）(2019-07-04/05) に対して、国立国会図書館、情報知識学会、情報メディア学会、専門図書館協議会、日本医学図書館協会、日本情報経済社会推進協会、日本図書館協会、日本図書館情報学会、日本特許情報機構から後援を受けた。

④ 他団体に後援、協賛したもの

- ・2019年度専門図書館協議会全国研究集会（2019-06-21）
- ・特許検索競技大会2019（2019-09-07）
- ・IS Forum（2019-06-13, 2019-09-27, 2020-01-09）
- ・TP&D フォーラム2018（2019-08-24/25）
- ・第24回情報知識学フォーラム（2019-11-23）

これらについては、会誌に広告を掲載する他、投稿があれば開催報告を会誌に掲載している。また当協会の宣伝用ビラの配布も適宜依頼している。

7. 事務局

事務局長事務取扱 長田 孝治 総括

担当 鈴木 吉之 各種委員会、INFOPRO シンポジウムの運営、検索技術者検定の試験実施、メルマガ発行、ホームページ維持管理

担当 木村かな子 経理

担当 廣田みどり 会誌編集管理

担当 光富 健一 ISO 関連受託事業

- ・ 会員管理、購読者管理、書籍販売事務 2019年3月1日以降は(株)毎日学術フォーラムから会員管理、購読者管理を(株)アドスリーに委託変更
書籍販売事務については販売集の減少により事務局で実施
- ・ 会誌編集事務 昭和情報プロセス(株)に委託
- ・ シンポジウム運営サポート 本年度は通常の日開催になり(株)アドスリーに委託
- ・ 試験会場運営 一部(株)全国試験運営センターに委託
- ・ 会計業務 アスト税理士法人(AST)に委託
- ・ ホームページ(システム契約、WordPress サイトマネージメント保守)
タイニービット(有)

以上